

実施日：12月6日（1校時）	
教科等：各教科（社会科・公民的分野）	
取組名：「ネット社会」とつき合う方法	
対 象：3年生	実施場所：教室
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ネット社会」の利便性と危険性について知る。 ・ 「ネット社会」を生きる上で自分自身及び他者の人権を尊重するために必要な態度や技能を理解する。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもにとって身近な「X」「TikTok」等から導入し、「ネット社会」を自分事としてとらえられるようにする。 ・ 豪州の、「16歳未満の子どもにSNS利用を禁止する法案」について取り上げ、賛成か反対かの立場を判断させ、その理由をもとに交流し、「ネット社会」の利便性と危険性について生徒自身から引き出せるようにする。 ・ ネット社会の中で、人権課題が関係する「クイズ」を出題し、生徒の興味関心を高めながら考えられるようにする。 ・ 生徒自身の身近な経験や世の中で実際に発生した例にもとづき、情報モラル・情報リテラシーについて理解・考察させる。 	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 情報モラルについて、家庭でも話をしてもらえよう、通信や懇談等様々な場で呼びかける。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に教科部会等で指導案等について検討し、教員間での共通認識をもって指導する。 ・ 授業のワークシートやふり返りでの生徒の記述から、指導を通しての生徒の変化を読み取り、今後必要な取組について検討する。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ ワークシート 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒にとって身近なスマートフォンの使用制限についてのトピックを用いて授業をしたことにより、授業のふり返りやワークシートで、授業者の期待以上に「ネット社会」とつき合う方法について理解し、考察することができている生徒の姿が多く見られた。 ・ 大人の目線ではなく生徒自身が現在抱えている「ネット社会」に関わる問題意識についても把握することができ、今後の指導に向けた参考となった。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記成果のような姿があった反面、十分に理解できているといえなかった姿もあった。「ネット社会」を含め、情報モラルについて指導することは今後、自他の人権を尊重する上で一層重要なことであるため、さらに工夫し、効果的な指導を検討する必要がある。 ・ 各教科だけでなく、道徳科や特別活動、さらに生徒指導との連携も図る必要がある。 	